

I トピックス

G 7 富山・金沢教育大臣会合

日本がG 7議長国を務めた2023年、広島サミットのほか全国各地で関係閣僚会合が開催され、そのうちの1つ「G 7 富山・金沢教育大臣会合」が5月12日（金）から15日（月）の期間、富山県と石川県で開催されました。

本県では、エクスカーションや夕食会等を通じて、高い教育力をはじめ、自然や歴史、文化、食など本県が誇る多彩な魅力を各国の要人に大いにアピールしました。本県で開催されたオープニングセッションでは、同年3月の「こどもサミット」に参加した富山市と金沢市の中学生代表が、自分たちでまとめた宣言書の内容などについて英語で発表し、各国大臣からの未来の教育等に関する質問にも堂々と答えていました。文部科学大臣からも、その姿は誇らしく、「日本の宝だ」というお言葉もいただき、子どもたちにとって、一生忘れられない経験になったと思います。「こどもサミット」をはじめ、たくさん子どもたちが、様々な関連事業に主体的に参加しており、県では小中学生向けの広報誌を発行するなど、子どもたちが貴重な経験や学びから得た自信と誇りを、県内の子どもたちに広め、レガシー（遺産）にしていきたいと考えています。

また、会合では、G 7各国の大臣たちが出席し、「コロナの影響を踏まえた今後の教育のあり方」を全体テーマとして議論が行われ、今後G 7各国が連携しながら進めていく教育の方向性が「富山・金沢宣言」という名称でとりまとめられ、世界へ発信されました。この宣言に、本県が政策の柱として位置づけている「ウェルビーイング」の向上策が盛り込まれたことは、大きな成果です。

今後とも、この「富山・金沢宣言」をふまえ、コロナ禍で明らかになった学校の役割を改めて認識し、子どもたち一人ひとりの「ウェルビーイング」を高めるため、教員の確保・配置の充実、意識改革や資質の向上に加え、学校現場の働き方改革、ICT環境の充実等を図りながら、課題解決型学習や国際交流を推進することで、子どもたちが主体的に考え、多様な他者と協働しながら解決策を生み出す力を育成してまいります。



こどもサミット宣言書に関する意見交換



エクスカーション

小学校でのICTを活用した授業の見学

富山県・韓国江原特別自治道交流 30 周年記念事業

1 江原特別自治道知事の来県

富山県と江原特別自治道（2023 年 6 月に道から特別自治道に昇格）は、1993 年 2 月に「文化芸術及びスポーツ分野の交流協力に関する議定書」を取り交わし、文化芸術、スポーツ、観光、環境保全など幅広い分野にわたり交流を行ってきました。

2023 年に議定書の締結から 30 周年を迎えたことから、同年 11 月に金鎮台^{キムジンテ} 江原特別自治道知事が歴代知事として初めて来県しました。11 月 3 日（金・祝）には、さらなる友好交流と協力に向け、新たに「富山県と江原特別自治道の友好交流と協力に関する協定書」を締結しました。

また、同日、江原特別自治道との交流 30 周年を記念して韓国文化を紹介するイベント「韓国文化の日 in 富山」を開催しました。テコンドーの演武、県内高校生による K-POP ダンスステージ、韓国の伝統工芸体験などを通じて来場者に韓国文化の魅力を伝えました。夜には富山市内で記念交流会を開催し、出席した駐新潟大韓民国総領事、県関係者、韓国進出企業や関係団体等が 30 周年を祝賀し交流を深めました。

2 富山県・江原特別自治道交流 30 周年友好訪問団の派遣

江原特別自治道から「2024 江原冬季ユースオリンピック開会式」に招待いただき、2024 年 1 月 17 日（水）から 20 日（土）の日程で、横田副知事を代表とする訪問団を派遣しました。

「2024 江原冬季ユースオリンピック開会式」に先立ち、18 日（木）には江原特別自治道主催で、同地域と海外姉妹・友好都市にある政府代表団の歓迎レセプションが開催されました。翌日には、金鎮台 江原特別自治道知事と面談し、知事からは元日に発生した能登半島地震へのお見舞い状とともに「道民の心を込めて支援したい」という温かいメッセージをいただきました。

また、今回の訪問では、航空会社訪問、江原観光財団との面談なども行い意見交換や現地視察を通じて相互理解を深める契機となりました。



2023.11.3

江原特別自治道と協定書締結



2024.1.18

江原特別自治道での歓迎レセプション

英国及びアイルランドでの観光セールス・県産品輸出に向けたPR

欧州からの高付加価値旅行者の誘客と欧州への県産品の輸出拡大のため、2023年10月31日（火）から11月5日（日）にかけて、横田副知事以下が英国とアイルランドを訪問しました。

英国では、昨年につき2回目となる観光プロモーション「富山 week in ロンドン」を実施しました。外務省の対外発信拠点「ジャパンハウス・ロンドン」での観光セミナーやワークショップ、商業施設「パンテクニコン」での富山の地酒のペアリングディナー、現地の大和日英基金と連携した観光セミナーなどを開催。セミナーやワークショップでは、和菓子職人の引網康博氏による和菓子製作の実演や富山の日本酒の試飲などを行い、現地の方々に富山の伝統文化や技に直に触れてもらうことで、富山の魅力を強力にアピールすることができました。加えて、新たな取組みとして現地旅行会社を個別訪問して旅行商品造成を働きかけるとともに、県産品輸出の足掛かりをつくるため、現地商社等へ食文化のPRや県産品の提案を行いました。

アイルランドでは首都ダブリンにおいて、万博国際交流プログラムに取り組みました。国では、2025年の大阪・関西万博を契機として国際交流を促し、地域の活性化につなげたいと考えており、本プログラムはそのモデル事業として採択されたものです。具体的には、本県ゆかりの丸山則夫 在アイルランド大使にご協力いただき、大使公邸で食文化交流会を開催しました。富山市岩瀬で新進気鋭の和食シェフとして活躍する下條貴大氏による富山の食材を活かした寿司の技の実演や、富富富を使った寿司づくり体験ワークショップを通じ、本県の食文化の魅力を発信しました。また、本県の食・文化・伝統・技を紹介し、今後の農産品輸出の可能性を探りました。

日本食レストランのオーナーからは富富富や昆布に興味を示され、県産品輸出の面でも手応えを得ました。また、現地の旅行会社、メディアともに反応が非常によく「富山に是非行きたい！」との声が多数あり、2023年の英国からの延べ宿泊者数の2019年比の伸び率は、富山県が全国1位となるなど、その成果が表れはじめています。



ジャパンハウスでのプレゼン



和菓子の実演



アイルランドでの寿司作り体験

